

くっちゃん景観だより

第2号 2020年12月発行

お問い合わせ/発行者 俱知安町まちづくり新幹線課景観室
TEL 0136-56-8012 FAX 0136-23-2044 E-mail:keikan@town.kutchan.lg.jp

町の景観資源の整理及び各種会議を開催しました

第2号のくっちゃん景観だよりでは、町民のみなさんにご協力いただいたアンケート調査や現地調査等を踏まえて整理した俱知安町の景観資源と、検討会議や市街地景観検討部会、景観地区検討部会での検討経過をお知らせします。

俱知安町の景観を構成する「景観資源」について

景観資源とは、人々の営みや自然環境が風景や景色として私たちの心に印象づけるもの、「俱知安らしさ」につながるものを指します。これらを把握・整理することで、「守る・育てる・創り上げる」といった景観づくりの目標がみえてくると考えています。

以下に示す内容は一部であり、ほかにも俱知安らしさにつながる資源がたくさんあると思いますが、第1号でお知らせした内容を踏まえ、景観室では景観資源を5つに分類し整理してみました。

1 自然や地形



羊蹄山やニセコ連峰をはじめとする雄大な山々と清流尻別川などの良好な水辺環境があります

- ・それぞれ国立・国定公園でもある羊蹄山とニセコ連峰の雄大な自然
- ・1,000m超の山々の標高から見渡す景色
- ・市街地や農業地域から見る山々の景色
- ・尻別川、倶知安川、河岸段丘によって囲まれた沖積地上にある市街地
- ・河畔林が織りなす水と緑の美しい水辺
- ・広葉樹が多い町内の森林が季節により色を変え、四季の移ろいを感じさせる

2 産業



ー農業ー

- 羊蹄山を背景とした四季の移ろいを感じられる農業景観が広がっています
- ・尻別川流域や河岸段丘上の平坦な台地に広がる農地
 - ・春の訪れを感じる、融雪剤が撒かれる光景
 - ・初夏、農作物が一面に青々と茂る様子
 - ・馬鈴薯のピンク色や黄色の花の絨毯
 - ・朝から夜まで農作業をする、収穫期の様子
 - ・農地脇に積まれた収穫コンテナ
 - ・冬、農地に広がる真っ白な美しい雪原

ー観光業ー

- 世界から注目される自然体験が重要な観光資源となっています
- ・ニセコアンヌプリにある2つのスキー場
 - ・パウダースノーに魅せられた多くの観光客がウィンタースポーツを楽しむ姿
 - ・冬は特に賑わうニセコひらふ地区の魅力的な国際的リゾート地
 - ・自然を生かした夏のアクティビティ
 - ・自然を感じる広い道路、山岳ルート、リゾート地、市街地など、多くのサイクリストを惹きつける変化に富む道路環境

3 暮らし



JRや国道5号を中心としてまちの骨格が形成、清掃活動など町民のまちづくりの取組が日常的に行われています

- ・町民の多くが、羊蹄山を住宅等から望める
- ・碁盤の目につくられた道路による、すっきりとした印象の街並み
- ・堆雪幅を考え広めに作られた町道
- ・雪解け時に「春のグリーン作戦」を集中的に行う町民の姿
- ・大小さまざまな公園が市街地に点在
- ・暮らしに潤いをもたらす、積極的な清掃活動や花壇づくり

4 雪



世界に誇れる、良質な雪に覆われた美しい景観が広がります

- ・早朝に町道をくまなく除雪することで、安全に通行できる状態になっている道路
- ・積雪で狭くなった道路で譲り合う光景
- ・歩道除雪でできた雪かべの中を歩く光景
- ・空地が堆雪場として利用されている様子
- ・町全体が一面真っ白の世界になる、しんと雪が降り続いた翌朝の光景
- ・宝石のようにキラキラと輝くスキー場のナイター照明

5 町民の愛着



羊蹄山やニセコ連峰、自然環境に対する愛着が育まれています

- ・山々の景色で季節を感じたり、天候を予測するなど、心の中で当たり前のようになんかを意識して生活している
- ・おいしい水がある暮らし、スキーなどのアクティビティ、肥沃な農地でできる農産物、多くの観光客が訪れる状況、どれも自然の恩恵の上にあることが町民の誇り
- ・「雪」によって、他者への優しさ・思いやりを育む文化になっている

これまでに開催された検討会議、部会の報告

町の景観に関する検討に伴い、9月から11月にかけて検討会議を1回、景観地区検討部会を3回、市街地景観検討部会を2回開催しました。(詳細は町ホームページに公開しています。)

第3回 検討会議

日時：2020年10月19日(月) 午後2時00分～午後4時00分

場所：風土館



◆議題「倶知安町の景観特性や課題、景観の理念や方針などに対する意見交換」

倶知安町の景観特性や景観要素、課題についてまとめた素案の確認や、これからの倶知安町における景観の基本理念、基本方針、地域区分、分野別方針のたたき台について意見交換を行いました。

意見交換の一例

- ・「みる」ための景観だけではなく、暮らし・農業・観光・文化が「つくる」景観という視点も大切である。
- ・住民が楽しく安全に暮らしていることが大切であり、観光はその暮らしの姿を見て感じることはないか。
- ・未来の子ども達のために、どのように景観を残していくか・つくっていくかを考えていきたい。
- ・景観を考えるには、まず自分ができることは何か、次に隣近所との関わりの中で何ができるかという視点が大切。
- ・人々の暮らし方や時代によって景観もおのずと変わっていくものであるが、農業・森林地区は劇的に変わってほしくない地区だと思ふ。

景観地区検討部会

(スキー場周辺などのリゾートエリアに関する検討)

第1回「観光地マスタープランなどを踏まえた土地利用について」

日時：2020年9月11日(金)

午後2時30分～午後4時30分

場所：ホテルニセコアルペン2階シュプール

その他テーマ

開発誘導、景観誘導のあり方



意見交換の一例

- ・今のリゾートエリアは山・森・建物がセットになっており、それが無くならないよう開発のボリュームを抑えるエリアの検討が必要。
- ・これからの開発に対して資源(水源や温泉など)に関する消費の仕方とも考えていくべき。

第2回「環境保全と景観のルールについて」

日時：2020年9月25日(金)

午後1時30分～午後5時00分

場所：ホテルニセコアルペン2階シュプール

その他テーマ

フィールドワークの実施(リゾートエリアの外縁部)



意見交換の一例

- ・景観地区設定から10年以上経過し、開発の手が広がっていることから、範囲を見直す必要がある。
- ・これまでの「高さ」「色」などに加え、「みどり」の確保についてルールが必要と思う。
- ・尻別川の魅力を活かしたい。

第3回「“ニセコらしさ”につながる質の高いリゾート地形成のあり方について」

日時：2020年11月10日(火)

午後2時00分～午後4時30分

場所：ホテルニセコアルペン2階シュプール

その他テーマ

フィールドワークの実施(ニセコひらふ地区)



意見交換の一例

- ・10年ほど前に想定していたより多くの開発が進んでおり、より厳しいルールが必要である。
- ・地区ごとに目指す方向性を整理し、その実現のために、建物のボリュームや緑化などについてルールを考えていくべき。

市街地景観検討部会

(倶知安駅周辺の市街地に関する検討)

第1回「魅力あるまちにつながる景観づくりについて」

日時：2020年9月10日(木)

午後2時00分～午後4時30分

場所：中小企業センター ホール

その他テーマ

まち歩きの実施(駅周辺)



意見交換の一例

- ・賑わいづくりは魅力的な取組を行うことであり、建物の表面を綺麗にするだけでは魅力は生まれない。
- ・案内サインもおもてなしの一つなので、考えていく必要がある。
- ・店の外側につけるちょっとした看板などもまちの雰囲気を作る大事な要素。

第2回「駅舎・駅前広場からの街並み景観について」

日時：2020年10月20日(火)

午前10時00分～午後0時00分

場所：倶知安町総合体育館2階研修室

その他テーマ

駅前からの羊蹄山の眺望について、駅前の通りの軸について



意見交換の一例

- ・駅前のどこからか、羊蹄山への眺望できる視点場を確保したい。
- ・建物は人間的な尺度でつくり、その中で高さを抑えることも考えられる。「規制」ではなく「誘導」という考えが良い。
- ・駅前広場は駅前通りからの見え方などを考えると「みどり」の配置のしかたが重要である。

～景観室から～「一担当者として大切にしたい景観資源とは」(倶知安町まちづくり新幹線課景観室景観係 主事 八田 裕誓)



(ヤマゲラの雄 岩尾別で撮影)

私が思う景観資源とは、住民一人ひとりが持っている、大切にしたい景色の集合体だと思います。これらは住民が大切にしたいものを集めていくことにより、大切にすべき景観資源が見えてくるものとも言えます。近年、倶知安町では開発が多くなってきていることから、今ある倶知安の景観が損なわれる可能性があります。今ある日常風景に注目し、本当に大事にすべき景観資源は何かをもう一度見つめ直すことで、美しい我がまちの景観を守り、育み、創ることへとつながり、より住みよい環境にすることができるのではないのでしょうか。